



免疫抑制剤服用中の 予防接種について 〜腎・リウマチ性疾患編〜



産業医 田名 毅
首里城下町クリニック





産業医だよりでは、毎月私のクリニックで行っている 地域むけ医療講演会 YouTube 配信の内容を要約してお伝えしています。今月の地域むけ医療講演会は、免疫抑制剤服用中の予防接種について〜腎臓・リウマチ性疾患編〜というタイトルで当院の比嘉啓医師にご講演をいただきました。以下に要約を紹介します。

リウマチ、膠原病、ネフローゼ症候群を起こす腎臓病は、治療のためにステロイドをはじめとする免疫抑制剤が高頻度で使用されます。若年期に発症し、免疫抑制剤を使用する可能性が高いこれらの疾患の場合、以下の2つの点が問題になります。

- ・妊娠の可能性のある人がこのような病気になった場合と出産後の赤ちゃんのワクチン接種に考慮が必要な場合
- ・医療従事者がこのような病気になり、生ワクチンの接種が必要になった場合

2024年4月に発表されたガイドラインなどを参考にした説明がありました。

1.生ワクチンと不活化ワクチンについて

	製造方法	接種回数と抗体の量	免疫抑制状態における病原性
生ワクチン	<p>病原体となるウイルスや細菌の毒性を弱めて病原性をなくしたものを原材料として作られます。</p> 	<p>毒性を弱められたウイルスや細菌が体内で増殖して免疫を高めていくので、接種の回数は少なくて済みます。十分な免疫ができるまでに約1カ月が必要です。</p> 	可能性有
不活化ワクチン	<p>病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせた（不活化、殺菌）ものを原材料として作られます。</p> 	<p>自然感染や生ワクチンに比べて生み出される免疫力が弱いため、1回の接種では十分ではなく、何回か追加接種が必要になります。接種回数はワクチンによって異なります。</p> 	少

田辺三菱製薬ワクチン.netより改変

弱毒であっても生ワクチンは、ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤、JAK 阻害剤使用中は原則禁忌となっています。不活化ワクチンは、免疫を抑えられた状態でもワクチンの病原性が出ることはほぼないので、通常のスケジュールで接種できます。少量ステロイド、メトトレキサート、TNF 阻害剤を使用中であっても、必要性が高い場合はワクチン接種を検討できるとされています。

医療従事者が免疫抑制剤使用の病気になった場合は、前記を考慮し通常勤務に必要なワクチンが接種できないこともあり、勤務や実習体制の配慮が必要となります。また、妊娠中の方が免疫を抑制する際、注意が必要なのはロタウイルスです。

ロタウイルス感染症及びロタウイルスワクチンの概要

ロタウイルス感染症について

症状

- 腸からの水の吸収が阻害され下痢症を発症（**ロタウイルス胃腸炎**）
- 通常1～2週間で自然に治癒するが、脱水がひどくなるとショック、電解質異常、時には死に至ることもある

疫学

- 主に乳幼児（4～23か月児）に重度の脱水症を認める
- ⇒ 日本における5歳未満の急性胃腸炎の入院の4～5割程度がロタウイルス由来
- 5歳未満の乳幼児では、ロタウイルス胃腸炎により**全国で年間26,500～78,000人が入院**

治療

- 特異的な治療法はなく、下痢等に対する対症療法を行う。一般的には輸液療法、食事療法が中心

ロタウイルスワクチンの概要について

	概要	効能・効果	用法
ロタリックス® (GSK社)	<ul style="list-style-type: none"> 経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン 平成23年7月1日に製造販売承認 	<ul style="list-style-type: none"> ロタウイルスによる胃腸炎の予防 	<ul style="list-style-type: none"> 生後6週から24週までに2回経口接種
ロタテック® (MSD社)	<ul style="list-style-type: none"> 5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン 平成24年1月18日に製造販売承認 		<ul style="list-style-type: none"> 生後6週から32週までに3回経口接種

第15回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会(2019年10月2日)資料より

ロタウイルスは国内では出生14週6日までに接種するようにとされていますが、生物学的製剤を受けている母体から出生した児への接種は原則控え、母体の原疾患を担当している医師等に相談の上、個別に検討する必要があります。経口の免疫抑制薬の投与を受けていた母体から出生した乳児について接種は可能となります。

以下これまでの話をまとめますと

2、妊娠中の生物学的製剤(抗体製剤)の投与を受けた母親から出生した児への予防接種

1.ロタウイルスについて(国内では出生14週6日までとなっている)

- 海外の報告で、接種児で腸炎症状の出現に差はなかったと報告
- 米国では2022年に条件付きで接種を推奨
(リツキシマブについては、避けるべきとしている)

2.BCGについて(生後5～7ヶ月目に1回接種となっている)

- 海外の報告で、生後6ヶ月以内の接種で大きな局所反応(4/15例)、播種性BCG菌感染症での死亡例4例
- 6ヶ月を過ぎて接種児には、明かな有害事象は認めていない
- 少なくとも6ヶ月を過ぎてから(7～11か月目 ***演者解釈**)接種することが勧められる。

免疫抑制状態にある患者に対する予防接種ガイドライン2024より改変

3、生ワクチン接種と不活化ワクチン接種の考え方

不活化ワクチン接種

- ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤、JAK阻害薬使用中においても、おおよそ有効かつ安全と考えられ、通常のスケジュールに従って接種することを推奨する。

弱毒生ワクチン(ロタ、BCG、麻しん、風しん、水痘、おたふくかぜ)

- ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤、JAK阻害薬使用中において接種は原則禁忌であり、行わないことを推奨する。
- 少量ステロイド、MTX、TNF阻害薬使用中における麻しん・風しん・おたふくかぜ単独もしくはMR混合ワクチンの追加接種、ならびに水痘に免疫がない患者に対する水痘ワクチン接種が必要とされた場合は接種を行うことを提案する。

免疫抑制状態にある患者に対する予防接種ガイドライン2024/4

まとめ

- 生ワクチン接種を考えたうえでのRA・SLE、ネフローゼ症候群に対する免疫抑制療法についての話でした。
- すでに治療中の場合
医療関係者については、一概に生ワクチン接種を回避するのではなく、米国の「高容量」並びに欧州の「免疫抑制状態」を参考にして、各主治医で判断する必要があります。
- 麻しん・風しん・水痘・おたふくかぜの罹患歴・ワクチン接種歴の確認は必須であり、免疫抑制剤の開始を待てる状態であればワクチンの接種を検討すべきだと改めて感じました。
- 治療中の妊婦から出産した乳児については、6か月以内の生ワクチンが原則禁忌です。ロタウイルスについては、各症例判断となります。BCGは7か月～11か月目の接種が推奨となります。





第 242 首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ：『プレコンってなあに？

～未来の幸せを目指して～』

日時：令和6年9月11日（水）午後7時～配信

YouTube 配信



その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

あなたの **健康相談窓口** です！

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内での産業医との面談は診療後となりますが調整の上、可能です。
事前のお電話で調整します。“産業医や保健師と面談希望”とお話してください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
認定産業看護師
公認心理士 田名彩子



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
與儀雅代



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 080-4312-9200(田名彩子)
メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！